

第3回改定委員会議事概要(主な意見と対応)

主な意見		対応	
1	緑・公園に関する区民アンケート	◆ 誰かに緑の良さを伝えたいという区民の思いが強くあるので、そうした思いは拾ってあげるとよい。	“みどり”と人をつなぐ施策展開の中で検討。
2		◆ 緑の募金や公園やまちの緑に対するアイデア出し、緑や生きもの、町の歴史等を調べるといった意向が若い世代にも見られたので、そうした意向を受け止める場作りが必要。	区民アイデアを取り入れる方策について検討する。
3		◆ インターネットアンケートの若い回答者は制度等に関する認知度が高い一方で、どこに相談したらよいか分からない、必要な情報が得られないといった意見が多く、みどりの情報の伝え方について今後の参考になる。	緑の情報発信の充実を記載する。
4	保存樹木等に関するアンケート	◆ 保存樹木の本数、新規指定および指定解除数の年間推移等は基本計画にも入れ込んで頂けるとよい。	計画書に保存樹木の本数や指定状況の推移等を記載する。
5		◆ 落ち葉の回収等への助成等の支援が今後行えるとよい。	保存樹木については、古木・名木等に対する支援の強化を検討する。
6	全般	◆ 板橋区のみどりの要素として外せない、都立赤塚公園や荒川を計画にどのように位置づけるのか見えてこない。	都立赤塚公園については、ニリンソウ群落の保全、生物多様性保全管理計画を記載。 荒川については、荒川将来像計画に基づく取り組みを記載。
7		◆ 区として崖線や荒川等の自然を責任持って保全することを明示してほしい。	板橋区緑の保全方針に基づく樹林地保全等、エコロジカルネットワークの形成による生物多様性の保全と再生を記載。
8		◆ エコロジカルネットワークは失くさないでほしい。	生物多様性の向上の中でエコロジカルネットワークの形成について記載。
9	課題	◆ 課題に区民が関わる表現が必要。	「区民に緑の価値を実感してもらう」「協働活動の活性化」の中で取り入れる。
10	改定の視点	◆ 改定の視点に協働が見えるとよい。自分のこと化する等の表現あるとよい。	改定の視点として「協働の取組みの推進」を設定。
11	計画のテーマ	◆ 社会動向が非常に整理されているが、それがテーマに上手く反映されていない。	計画書の本文では、そうした趣旨を記載する。
12		◆ 計画のテーマについて、テーマⅠを時間軸、テーマⅡを空間軸、テーマⅢを社会軸として整理すると立体的な構造で整理できる。	テーマⅠを「緑の保全による次世代への継承」、テーマⅡを「緑化推進・公園整備」、テーマⅢを「緑の協働」として構成する。

主な意見			対応
13	将来 像図	◆ 地域別に将来像図が描けると分かりやすくよい。	地域施策はみどりのエリアプランとして記載。
14		◆ 将来像も地域ごとであり、その中で自分の活動が見えてくると自分のこと化につながるのではないか。	地域施策はみどりのエリアプランとして記載。
15		◆ エコロジカルネットワークやグリーンインフラの視点から見ると資料 7 将来像図（イメージ図）は間違っている。	イメージ図は、区民の日常生活視点から見た将来イメージであり、エコロジカルネットワークやグリーンインフラの要素を直接反映した図となっていない。
16	PR	◆ 区の緑に関するプロモーションビデオ等をつくり色々な機会で見ってもらうのはどうか。	「魅力発信！いたばしナビ」として、区政情報発信の一環として公園紹介などを本庁舎のデジタルサイネージやネット配信を行っている。今後も緑の情報発信としての取り組みを進める。
17		◆ 板橋区は人口が増えているので、区に転入してくる新しい人にむけて区の緑を知らせていく必要がある。	様々なメディアを通じた緑の情報発信の充実を図っていく。
18		◆ 情報を伝え、アクションを起こしてもらうためには戦略が必要であり、その一つに AIDMA（アイドマ）という考え方がある。Attention（注意喚起。注意を持たなければ情報をキャッチしない）、Interest（興味・関心）、Desire（欲求）、Memory（記憶）、Action（行動）。	シティプロモーションの一環として、緑の情報発信の充実を進める。